

和歌山・秋月遺跡 あきづき

- 1 所在地 和歌山市太田
- 2 調査期間 一九八五年(昭60)七月～一九八六年二月
- 3 発掘機関 和歌山県教育委員会
- 4 調査担当者 山本高照
- 5 遺跡の種類 古墳群・集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代前期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(和歌山)

秋月遺跡は、国鉄和歌山駅の南東約1kmに鎮座する日前宮を中心
に広がる遺跡である。日前宮は、古代の紀国造、紀直氏の本拠地と
して知られる。この日前宮
の西に隣接する県立向陽高
等学校で、特別教室棟の建
築工事が計画されたため、
事前に発掘調査を実施した。
その結果、古墳時代前期の
前方後円墳や方墳をはじめ
として、奈良時代から鎌倉
時代におよぶ掘立柱建物や



井戸・土壇等を検出した。奈良時代以降の遺構については、日前宮
との関係も推測出来る。馬形として再利用された木簡は、奈良時代
後期の井戸から、斎串とともに出土した。この井戸は、深さ二・五
mあり、縦板組横棧どめの井戸枠をもつものである。なお、平安時
代前期の井戸から、墨書のある土器も発見されている。

8 木簡の釈文・内容

(1) 大 力
田 口

42×17×4 061

『播磨国風土記』揖保郡条に「紀伊国名草郡大田村」が見え、『和
名類聚抄』に、名草郡大田郷が記載されている。

9 関係文献

和歌山県教育委員会『秋月遺跡発掘調査現地説明会資料』(一九八
六年)
(山本高照)